

住民参加型ワークショップの開催結果について

関西で暮らし、学び、働いている方々が、関西の現状をどのように感じ、その将来にどのような期待や課題感等を抱いているかを互いに共有し、叶えたい関西の将来像を自由に思い描くワークショップ『ミライカンサイ サクセンカイギ』を開催するとともに、公開ミーティングにおいて、ワークショップの成果報告や意見交換を行いました。

1 ワークショップ

(1) 日時 令和7年8月31日(日) 10時～12時(オンライン)、14時～16時(現地)

(2) 場所 グラングリーン大阪 JAM BASE マルチスペース(大阪市北区)

(3) 参加者

- ファシリテーター 篠原 幸子 氏(NPO 法人京都子どもセンター 理事)
- 公募参加者 25名(オンライン開催3名、現地開催22名)及び聴講1名
※2府6県全てから参加、大学生等10～20代が8割
- 広域連合職員(ワークショップ参加) 6名



(4) 内容

- テーマ「2030 年の関西が 100 点満点になっているとしたら、どんな関西か？」
- 参加者からの主な意見等
 - 【地域間交流・つながり】都市と地方の結びつき、関西の人の温かさの重視
 - ・関係人口の創出や「第2のふるさと」づくり
 - ・関西の住民は、関西を旅行し放題
 - ・地方と都市の心理的な近さ、シビックプライド 等
 - 【子育て・教育】子育てしやすい環境・制度、「学び」を強みとする関西
 - ・子育て支援や学費無償化 ・高校生でも議員になれる
 - ・社会人も気軽に教育を受けられる場 等
 - 【働き方・経済】経済的豊かさよりも柔軟性や自己実現の重視
 - ・リモートワーク導入率 100% ・二拠点生活や副業等、自由な働き方
 - ・学ぶ機会、リスクリング、挑戦の場 等
 - 【観光・文化】関西全体の魅力発信
 - ・京阪神だけでなく奈良や和歌山など、関西全域の魅力発信
 - ・住民と観光客が共存できる仕組みづくり、オーバーツーリズム対策
 - ・関西独自の文化や食、国際的なつながり 等
 - 【防災】関西広域での防災、協力体制の必要性
 - ・南海トラフ地震をはじめとする大規模災害への備え
 - ・関西全体での相互支援の仕組み 等
 - 【交通・インフラ】関西圏全体の移動の自由度と利便性向上
 - ・24 時間利用できる交通手段 ・紀淡連絡道路や四国新幹線の開通
 - ・地方への移動支援 等
 - 【広域連携・ガバナンス】住民参加による広域連携の強化
 - ・関西広域連合の認知度向上 ・EU のような関西（直接選挙等）
 - ・タウンミーティング等の住民参加の機会、街は人で出来ている 等

2 公開ミーティング

(1) 日時 令和 7 年 9 月 21 日（日）14 時～16 時

(2) 場所 グラングリーン大阪 JAM BASE マルチスペース（大阪市北区）

(3) 参加者

- ワークショップ参加者代表 関西在住大学生等 4 名
- 有識者 3 名
 - ア 新川 達郎 同志社大学 名誉教授（広域計画等推進委員会 座長）
 - イ 青木 正繁 高齢者支援相談員（関西広域連合協議会 委員）
 - ウ 大浦 由美 和歌山大学 観光学部長（広域計画等推進委員会 委員）
- 傍聴・インターネット視聴 47 名

(4) 参加者からの主な意見等

- 働く場所と暮らす場所のあり方。職業や働き方によって暮らす場所が縛られることのない、働きやすさと暮らしやすさが両立した関西。
- 「関西」というアイデンティティを関西全体で共有し、一層の地域間の交流や相互連携をしていくことが重要。
- 若者を含めた住民参画のあり方。旅行やスポーツ、ゲームなど、個人の興味のある分野から地域への関心を広げることが第一歩になるのではないかな。 等